

1/29 朝日

電通側 談合認める

五輪テスト大会 地検聴取に供述

の競争入札が行われ、電通を含む9社と共同事業体が落札した。契約金は計約5億4千万円だった。

電通は、サッカー会場や野球・ソフトボール会場など5件を計約8千万円で落札した。

東京五輪・パラリンピックのテスト大会をめぐる入札談合事件で、広告最大手「電通」側が東京地検特捜部の任意聴取に対し、談合にあたるといつて認識を認め、止法違反（不当な取引制

向していた職員、電通本体の担当者の3人が中心となり、各社の受注意向や過去の実績を踏まえて一覧表を作成した。一覧表は隨時更新し、企業側にも共有していたといふ。

26件の大半は1社しか参加しない「1社応札」となり、落札企業はほぼ一覧表の通りになつたといふ。

一方、組織委の元次長は電通側の社員らは当初の聴取に、一覧表の作成といつた事実関係は認めつつ、

してくるるという意味で、全金場に穴が開かないための調査だった」と供述し、違法性を否定した。しかし最近になり、他の社の参加を妨げた談合にあたるという認識まで認めたといふ。

一方、組織委の元次長は電通側と公正取引委員会は昨年11月に元次長の自宅や電通本社などを幅広く捜索し、調べを進めている。